

兵庫県生物学会60周年記念 「コタキナバル6日間」の記録

2007年7月31日(火)～8月5日(日)の6日間、兵庫県生物学会主催でボルネオ島マレーシアへの生物観察旅行が実施された。参加者は9名で、東マレーシアの都市コタキナバルを基点として熱帯地域の動植物を観察した。今回の観察旅行は前年度の予定であったが、応募が少なかつたために、今年実施された。

○第1日目 7月31日(火)

10:00に関西空港に集合、11:40搭乗開始、予定どおり12:00出発した。現地では日本より東経が19度ほど小さく、時差が1時間あるため時計を遅らせた。この日は25時間の日になり、得をした気持ちだ。現地時間で3:45に着陸したが、5時間のフライトの中で各々前の席についている画面で映画やゲームを楽しんだり、ガイドブックで現地の情報収集をしながら、時間を過ごした。

着陸後入国手続きをし、荷物を受け取り空港を出、現地の案内のティカさんと合流した。大きなバスでの出迎えでそのままホテルに向かう。通貨はリンギット(RM)で1RMは約35円である。

6:50ロビーに集合しスーパーマーケットに水などの買出しに出かけた。個人で2～3ℓほどミネラルウォーターや熱帯のフルーツなどを購入した。次に夕食へ出発だ。レストランの2階へ階段を上がり、奥の個室に通される。本日の夕食は中華料理で希望者はビールを注文する。

○第2日目 8月1日(水)

6:30起床。天気は雨。7:00ホテル1階(イギリス式でGround)のレストランでバイキングスタイルで朝食をとる。荷物の準備をし8:00に出発する。このころになると雨が小降りとなり、やんでいった。コタキナバル近郊のKiyonsom村に9:00到着する。各自防虫スプレーをし、山に入る。山道に沿って植物を観察・採集しながら登っていく。林内は植物がうっそう生い茂り薄暗い。湿度が高く蒸し暑い。1時間半ぐらいゆっくり観察し11:00ごろに下山し始める。山道入り口にはフルーツを販売している屋台があり、赤みのかかったバナナやランブータンを購入したメンバーのご相伴にあずかった。

12:00にKiyonsom村を出発し昼食に向かう。中華料理のような食事を賞味する。日本人の口に合うようにアレンジしてあるらしく、メンバーも食が進んだ。この食事中にハプニングが起こった。二人の方の袖口やズボンの裾から血液をいっぱい吸い、丸々と太ったヤマビルが床に何と3匹も落下したのだ。午前中に山

に入ったときに知らず知らずの間に入り込み血液を吸っていたらしい。30分ほどで胃がいっぱいになったため吸引をやめ、落下したらしいのだ。本人は始めての経験で、痛くもかゆくもなく気づかなかつたそう。ヒルを踏んで床に血が着いていた。おいしい食事には似つかわしくない雰囲気になってしまった。

食後コタキナバル南西の方向にあるパパール(Papar)の町を通りKlias Wetlandsに向かう。車で約2時間のドライブだ。Kota Kliasの村からガラマ川をクルーズしながら両岸に生息しているテングザルやカワセミを見に行くのだ。このあたりの湿地を利用しアブラヤシのプランテーションが作られ、ボートの発着場までは木道を歩いていく。発着場につくとまずバナナのでんぷらや米で作った甘い菓子を賞味し小休憩をとる。サルは活動時間は午後4時ごろで、川の両岸で植物を食べに集まってくるらしい。その時間に合わせてクルーズが実施されているのだ。ライフジャケットを身につけボートに乗り込む。支流から本流へ両岸はミモチシダの群生だ。出発して早々カニクイザルがボートの上を2匹横切る。ニツパヤシの球果が水面上にみられた。しばらくいくと10mほど先にお目当てのテングザルが4匹見られた。他のボートも5、6隻よってきた。テングザルは警戒するもすぐには逃げようとしない。明るい茶色の毛に長く垂れる鼻、大きな下腹部がその特徴だ。さらに下流に進みサルを観察する。1時間程度の観察で船を降り、木道を観察しながら基地に戻る。

6:00発着場でマレー料理である民族料理のバイキングを食べる。電球の明かりだけでの野趣あふれるスタイルだ。食事の後、川にホタルを見に行く。非常に小さなホタル(5mm程度)であるがかなり明るく光っている。発光時間が短く、大げさに言うとフラッシュのようである。

○第3日目 8月2日(木)

5:00起床し5:30朝食を食べる。今日も昨夜からの雨が降り続けている。6:00にホテルを出発し空港へ向かう。6:30到着し、搭乗手続きをしてもらい7:10搭乗、7:30離陸しサンダカンへ向かう。このころになると雨が小降りになり次第にやんでいった。

8:10サンダカンに到着現地のガイドさんと合流し大型バスでセピロックオランウータン保護施設に向かう。ここは親と生き別れになってしまった子供のオランウータンを保護し野生に帰す訓練を目的とした施設だ。ジャングルで餌をうまく取れなかつたサルのために10:00と15:00の1日2回の餌が準備されている。その餌を食べようすを観察するのだ。あらかじめ虫除けを塗り、荷物をロッカーに入れ出発だ。カメラは1台につき10RMを支払う。このお金はバナナなどの餌

代にあてがわれているようである。木道を歩き餌場まで進む。餌場の前は大きな広場になっており餌の時間を今か今かと待ち受けている。使われている言葉も様々だ。英語はもちろん、ドイツ語、中国語、日本語と世界のいろんな地域から見学に訪れている。餌場には多いときで20頭、少ないときで数頭のオランウータンがやってくるらしい。10:00の時間にやってきたサルは4頭であった。ミルクやバナナを係員から受け取り餌場に張ってあるロープに手をかけジャングルに移動していった。

11:40~12:40までバイキングスタイルで昼食。

12:45熱帯雨林インタープリテーションセンターに向かう。あまり大きな園ではないが食事に利用されている植物や生活に利用されている植物、水辺の植物やペゴニア、ラン、食虫植物のコーナーなどわかりやすく区切られ手入れも行き届いていた。また、説明書きのプレートもあり、植物の紹介もしっかりとされていた。ただ今増築中で作業の方々が多数仕事であった。

16:45コタキナバルへ出発、17:30到着。タラップで降りる。今では懐かしく感じられた。

19:15夕食へ出発だ。今日は海鮮料理を食べに行く。中華料理の味付けで皆おいしくいただいた。

20:30ホテルに戻る途中希望者はバスを降り、ナイトマーケットの見学に行った。ここではいろいろな日用品や衣服、飾り物やお土産が売られている。21:00ごろ急に強い風が吹き始め、それに合わせ、お店はあわてて店じまいを始めた。雨が予感される。早々にホテルに戻ろうとするが途中で雨が強くなり本屋へ入る。トイレは有料で50セント。

○第4日目 8月3日(金)

6:00起床。天気は雨。今日はキナバル山の生物観察である。しだいに車は山道に入り標高を上げていく。山岳地域に入り、キナバル山が間近に見えるようになった。転々と集落が見え、焼き畑も観察される。キナバル山の集落では多くの屋台が軒を連ね、果物や野菜を売っている。

10:30キナバル山自然観察園に到着する。標高は1,500mで気温が20℃ないようで半袖では肌寒い。

次にポーリン温泉に向かう。ここでバイキングで昼食をとる。

食事後キャノピーウォークといってジャングル上から見るために高い場所につり橋がかけられている。そこを渡りながら全体を観察するのだ。人が多くつり橋が一方通行なので待ち時間が多くかかってしまった。ここに入るためにはゲートをくぐるがカメラ1台につき10RM必要になる。

16:30キャノピーウォークから帰るが、時間がなく

なってしまった。

帰り道にあるKokobという村にラフレシアを見に行った。ここは個人で経営しているところで1人30RMを支払い園内に入る。木道が作ってあり観察に入る。竹やぶの中に1輪赤く花を咲かせているラフレシアを観察できた。ここの園は個人で経営をしているため花が咲いている間は少しリッチになるようである。花は約1週間で枯れてしまうためその後はまた農作物だけの収益になる

帰る時間が遅れるのを覚悟でフルーツの屋台だけ15分間見学することになった。全員少しでもどのようなフルーツがあるのか興味しんしんであり購入し味わったり、写真に取ったりと大忙しであった。バナナ、ドリアン、ジャックフルーツ、マンゴスチン、アップルフルーツなどが置かれていた。ドリアンはよく言われるように臭いが独特で不快に感じるが「果物の王様」と言われるだけの味であった。中でもタラップと呼ばれる果物は周りがパンノキのようで一皮むくと中に白いどんぐりのような粒が並んでいた。それを取りやわらかい種皮のような部分を食するとバターのような食感で甘く、癖のない味で本当に美味であった。20:15ホテルへ無事到着した。ホテルでの夕食となる。

○第5日目 8月4日(土)~第6日目 8月5日(日)

今日はオプションツアーに参加するか自由行動の日だ。自由行動をした方はいなく、①ボルネオ田園ツアーか②マングローブトレッキングとバーベキューの昼食かのどちらかに参加した。

15:30チェックアウト、荷物を別の車に載せ空港に出発した。荷物を預け出国検査、搭乗手続きを終えショッピングを楽しむ。17:30 MH-2617便に搭乗、16:10出発、クアラルンプールへ向かう。18:10到着し、国際線へ乗り換える。11:00まで約2時間の自由行動で各々空港のショップで買い物を楽しんだ。11:15搭乗手続きをし11:30 MH-052便に搭乗、予定より少し遅れて12:00クアラルンプールを無事離陸した。夜景が大変美しかった。

7:30ごろ無事関西国際空港に着陸した。

今回の旅行は9人という少人数であったため、動きが軽く機敏に行動できた。そのことは1日目のスーパーマーケットへの買出しの時に「そろそろ行きましょか」の言葉で全員がすぐに集まったり、4日目のキナバル山の自然を見に行った時に「ちょっと車止めて」の言葉でキナバル山の景色をさっと観察し写真を撮ることができたり、帰り道でフルーツの屋台を見学する時にも感じた。また、僕らのわがままなリクエストに添乗員さんやガイドさん、運転手さんがおおらかな気持ちで良心的に対応してもらい旅行の充実度が

アップしたことも多々あった。

メンバーの誰一人ケガや腹痛、発熱などの病気になることなく帰国できたことはすばらしいと思う。

今回の旅行はすべてPROMENADE HOTELに連泊しながらの観察であったがこのことは非常に良かったし楽であった。3日目のサンダカンへは飛行機で行かねばならず朝も5:00に起床であったが、大きなスーツケースを携えての移動に比べればリスクが非常に小さい。部屋でも荷物を広げっぱなしにできたしホテルの構造も理解しているので行動もスムーズであった。時間に余裕があるときはホテルの近くなら自分たちでもいけるようになってきた。もし宿泊するホテルが移動にあわせ変わることになっていけば大変な時間のロスになっていただろう。気づきにくいところだが連泊は大正解と思う。

しかし、募集人数の10名が集まらず一人当たりの諸費用が割高になってしまったことは少し残念である。今から思えば日本でやっているような里山を歩き観察をする時間が多いほうがよかったのかもしれない。現地の人との交流や生活を共にする体験は少なかった。果実の取り入れやキャッサバの芋ほり、魚釣りなどが考えられるがこのことは次回への課題になる。

今回の観察旅行では熱帯地域の強い印象を与え、生物の多様性を肌で感じる事ができた。

セピロクのオランウータン保護センター前 前列左から阪口、平畑、後列左から脇田、繁戸、白岩、小宮（近ツリ）、後藤、奈島、遠井、小野。



(西宮市立苦楽園中学校 脇田嘉輔：くらくえんちゅうがっこう わきたよしすけ)

2007年度 兵庫県生物学会 第61回大会報告

2007年5月20日(日)

場 所：三木市 兵庫県立三木森林公園

出席者：白岩卓巳、武田義明、前田常雄、小池孝良、
洪野竜二、北村 健、谷口 博、阪口正樹、
横山了爾、北方英二、樋口清一、田村 統、
繁戸克彦、谷本卓弥、宇那木隆、中尾義廣、
真野育三、工 義尚、平畑政幸、三木正士、
小倉 滋、横山雅一、井上清仁、笹井隆邦、
八田康弘、梶原洋一、荒芝博一、上根大輔、
小林拓郎、清水 洋、市村 豊、橋本光政、
奈島弘明 以上33名。

9:30~10:00 受付

(自然観察会用、森の研修館前)

10:00~11:30 三木山森林公園内の自然観察会

植物グループ、キノコ・シダグループ、鳥グループ、昆虫グループ

11:30~13:00 昼食・休憩

12:20~13:00 受付

(生物学会大会用、森の研修館内)

13:00~14:10 第61回大会 総会

- (1) 開会の言葉 真野東播支部長
- (2) 白岩会長挨拶
- (3) 議長選出 上根理事、北村理事(東播支部)
- (4) 議事

①平成18(2006)年度 会務報告

原案通り承認。

②平成18(2006)年度 会計報告・監査報告

原案通り承認。

なお、ハンドブック会計の過年度の経緯も報告された。

③平成19(2007)年度 企画案審議

原案通り承認。

④平成19(2007)年度 会計予算案審議

原案通り承認。

⑤研究発表会の形態について

例年通りの研究発表会を11月に行う。しかし、神戸大学サイエンスショップとの共催の形をとる。

⑥日生教全国大会兵庫大会への協力について

本部としては「資金面での援助は予算案や決算などの報告を受けることで行う」と提案し、会員のご意見を伺った。この提案に対して、特にご意見はなかった。その後、市村高等学校生物部会会長より協力依頼の説明がなされた。

(5) 平成19(2007)年度 役員委嘱